

大学教育再生加速プログラム(AP) 事後評価結果

整理番号	76	大学等名	松本大学松商短期大学部
テーマ	テーマV 卒業時における質保証の取組の強化		

（「大学教育再生加速プログラム委員会」による評価）

【総括評価】

A：計画どおりの取組が行われ、成果が得られていることから、本事業の目的を達成できたと評価できる。

【コメント】

大学改革の加速については、学修内容の可視化の過程で育成されたコンピテンスを「コア・コンピテンス」として整理し、可視化された状況を学生自身が把握し、主体的にこれを高める仕組みを構築したことは評価できる。また、4学期制の導入、これに伴うシステム改修、学期を活用したプログラムの開発及び外部評価体制の構築等、多岐にわたる取組が実施されている。特に、4学期制の導入によって、より効率的な授業展開及び長期のインターンシップや海外留学が可能となり、海外留学プログラムでは4年間で8校と連携を開始し、英国、カナダ、オーストラリア及び台湾の大学5校と協定等を締結したことにより、グローバル化が加速されている。さらに、国内外の視察やフォーラム等の実施を通して、教職員の意識改革と認識の共通化が推進されたことも評価できる。

事業の具体的な取組の進捗状況については、コンピテンス育成を重視した教育への転換、学修成果の可視化による主体的学修促進のための環境整備、卒業時の「ディプロマ・サプリメント」発行等、各年度の計画に基づき実施されている。また、FD・SD活動についても、成果等の情報共有及び分析の他、国内外の視察も実施していることは評価できる。目標の達成状況に関しては、必須指標「学生の成績評価（GPA 平均）」「進路決定の割合」及び「事業計画に参画する教員の割合」はいずれも目標値を達成したが、「学生の授業外学修時間」「質保証に関するFD・SDの参加率」及び「卒業生追跡調査の実施率」は、事業開始年度の実績値より向上したものの、目標値を達成できていないため、改善のための取組強化が望まれる。

事業の定着に向けた実施体制及び継続のための取組状況については、補助期間終了後には、学長を中心とした全学的取組により構築・推進された、カリキュラム改革及びコンピテンス育成を柱とした教育改革の可視化の“仕組み”を、通常の教育活動として実施していくとされている。また、教育改革の進捗状況の把握や指標の見直し、アセスメント・プログラムの開発、授業外学修時間の質と量の確保など、学生と教職員がPDCAサイクルを回しながら当該大学の取組の見直しに対応するため、「内部質保証室」を設置し、体制の強化も図られている。前述のとおり、補助期間中に構築された“仕組み”を動かし、通常の教育活動として事業を実施するため、特別な資金を要さないことから、事業が継続的かつ発展的に実施されていくことが期待される。

事業成果の普及については、APフォーラムや成果報告会での報告、他大学でのFD研修会に加えて諸種の研修会・フォーラム・シンポジウム等での講演・報告、さらには高校生用と企業向けのパンフレットを作成して普及活動を実施したことは評価できる。また、地元のラジオや新聞記事に加えて、テレビ番組での放映等、マスメディアを活用した普及活動も実施したことは評価できる。さらに、APフォーラムを再編し、取組の全体像とその有効性・効果を記載した図書の出版を予定していることから、事業成果の普及が期待される。